

<b>統計学</b>		<b>講師 竹内 芳衛</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>経営・経済コースの選択必修科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23001101</b>

### 1. 授業のねらい・概要

情報化社会と呼ばれ多種多様な情報があふれる現代、情報を選択し、意味するところをとらえ、意思決定するために、適切に活動する機能が要求される。多くの洞察と意思決定は、データに基づいて効果的に行われている。データを整理し、データの特徴を明確に表現するために、統計的方法は絶対に身に付けておくべきものである。

### 2. 授業の進め方

講義形式

### 3. 授業計画

1. 変数の分類と尺度	9. 共分散, 相関係数, 偏相関
2. 量的データの分布	10. 回帰直線, 最小二乗法
3. 累積分布図, ローレンツ曲線	11. 決定係数, 重回帰
4. 平均, 分散, 変動係数	12. 質的データのクロス集計表
5. 中央値, 最頻値, 四分位偏差	13. 時系列データ
6. 量的データの要約とグラフ表現	14. 指数化と幾何平均
7. 質的データの度数分布とグラフ表現	15. 時系列データの変動分解
8. 散布図, クロス集計表	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に教科書の該当する部分に目を通しておくこと（各回1時間程度）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

標準解答若しくは解説を提示し、又は本人解答を返却する。

### 6. 授業における学修の到達目標

1. 基本的な統計の概念と方法を理解し、説明することができるようになる。
2. 電卓を使用して、基本的な統計量を計算することができるようになる。

### 7. 成績評価の方法・基準

定期試験の点数（～100%）と平素の活動状況（0～20%）で評価する。

### 8. テキスト・参考文献

日本統計学会編. 統計学基礎：日本統計学会公式認定統計検定2級対応. 改訂版, 東京図書, 2015.

### 9. 受講上の留意事項

履修者の学修時間が「学則が規定する学修時間（2単位90時間）の三分の二（60時間）に満たない」と科目担当者が判断した場合には、「本科目を履修した」といえないので、定期試験を受けられない。

出席1回について、学修時間は6時間（授業での学修が2時間、授業外の学修が4時間）を算入する。

欠席の場合、授業での学修は0時間であるが、「証明書等を完備した欠席届が、欠席後最初の授業出席時までに提出された場合」に限り、授業外の学修は2時間または4時間（時間数は欠席理由等で変わる）を算入する。

遅刻・早退の場合、授業での学修は0時間または1時間として算入することがある。